

はじめに

全国あちこちで、居場所の運営や、たすけあいの仕組み作りが実践され、その事例がテレビなどでも報道されるようになってきました。地域でのたすけあいがあれば、地域で住みつづけることができる、そして地域の人とのいくつもの繋がりがより暮らしやすい地域へのきっかけ作りになることが、当たり前のことになってきました。

繋がり作りの拠点として居場所を運営している私たちは、居場所の機能を再度認識し、有効に活用していくことが求められています。またサポート事業では、人とつながり、安心して暮らせるネットワーク作りをすることが求められます。メンバーが皆、てとての目標に向けての思いを共有し、今年開所5年目に入ります。

時代や地域のニーズに反応し、私達に求められていること、私たちができることを少しずつではありますが、着実に実現しながら、私たちの思いをこめて丁寧に人をつなぐ活動を続けていきたいと考えています。ワーカーズコレクティブとして活動することを原点に、ニーズに合わせて進化する団体でありたいと願っています。

1. 2012年度事業報告

2012年度ワーカーズコレクティブてとては、生活クラブの事業みんなの居場所「わ〜くわ〜く北本」の運営を行い、同時に制度外的生活さぼーとサービス提供を行うことで、利用者のニーズに応える柔軟性を持つことができました。

また、団体設立以来の新規事業を開始または、開始登録申請を行うことができました。一つは福祉有償運送が本格的に始動したこと、もう一つは、埼玉県障害児（者）生活サポート事業の登録申請を行ったことです。この二つの事業は、公的に登録が必要な事業であり、利用者や行政から信頼を得て、てとてが地域に必要な社会資源となる基礎固めができたと考えています。また、男性スタッフもともに働く団体となりました。

暮らしにくさを抱えて生活する地域の人にも、てとての活動に参加してもらうことができ、はじめの一歩としてワーカーズで「共に働く」を実現できました。

「埼玉県広報力育成事業強化講習（個別支援）」の事業所として選抜され、ホームページを改良し、より見やすくわかりやすい情報発信が可能になりました。

地域福祉の事業所として地域で活動するということは、地域の活動だけにとどまるものではありません。例えば、事業計画以外に、会員のボランティアによる被災地支援団体宮北会の活動支援、埼玉ワーカーズコレクティブ連合会から、いま、「協同」が創る 2012 全国集会（日本労働者協同組合連合会）に実行委員としての参加、NPO 法人荒川わらの会と連携し、お米作り、大豆作りを行うなど、てとての活動は多岐にわたりました。

2. 事業の実施に関する事項（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲および人数	支出額（千円）
地域コミュニティ事業	居場所運営等	月～金	みんなの居場所「わ～くわっく北本」	15 名 ボランティア 2 名	地域住人 2,237 人	3,788
地域生活サポート事業	家事支援等	通年	北本市・桶川市・鴻巣市	9 名	会員 20 名	2,333
地域福祉ネットワーク作り事業	たすけあいを目的としたコーディネート事業	通年	事務所	1 名	生活クラブ生協組合員 3,396 人	24
福祉有償運送事業	福祉有償運送	通年	北本市・桶川市・鴻巣市・上尾市	4 名	会員 10 名	175

(1) 地域コミュニティ事業

（生活クラブ事業みんなの居場所「わ～くわっく北本」の運営）

■ サロン

サロン利用者：2,237 人（前年比 113%） 教室利用者：459 人（同 75.5%）

- ・ 居場所としての機能充実をはかり、常設の教室運営はもとより、新教室の開催などの企画を行いました。
- ・ 地域の方の利用が進み、リピーターも増えました。
- ・ スタッフによる手作りケーキの導入、喫茶メニューの充実により利用者の滞在時間が長くなりました。
- ・ スタッフ・ボランティアによるチラシ配布を行いました。

■ 食事作り 2,836 食（前年比 142.7%） 月平均 236 食

食材費のみ負担のスタッフ食を廃止し、販売数に繰入れたため

- ・ 居場所開所当初からの居場所としての利用者に加え、地域レストランとして利用する方が徐々に増え、その方達の居場所としてもつながってきています。
- ・ ワーカーズ連合会食部会に参加し、食のワーカーズとしての課題を共有し、WNJ の

食の研修会に定期的に参加しました。

- ・ 昨年度末にスタッフが増員となり、課題の共有・意見交換などが活発に行われました。
- ・ 外部団体からの依頼を受け、オードブル作りを行いました。
- ・ 生活クラブが支援する形での新規事業については、参考となる施設の視察を行い、今後につなげられるよう検討しました。

■ 一時託児・親子のひろば

- ・ 一時託児・親子のひろばの利用は、低迷しています。
- ・ 一方離乳食学習会 25名、からだをつかってあそびましょ 26名の利用があり、口コミで利用者が増え、参加者には好評で居場所の機能の充実として子供向け教室を開催する意義がありました。
- ・ 利用者にとって、単に教室に参加するだけでなく、子育ての情報を得る場となっています。両教室とも年齢的に制限があるので、通年を通しての利用がある性格のものではありませんが、短期的には、継続的な利用者がいます。
- ・ 夏休み企画の夏祭りには、日程の設定からか参加者が少なかったですが、親子教室は好評でした。
- ・ イベントに働きにくさを抱えた方のボランティア参加がありました。
- ・ 近隣地域へのちらしまきを行いました。

(2) 地域生活サポート事業

■ 生活さぽと 年間サービス提供時間 1,530.5時間（前年比132%）

- ・ 利用者が地域生活を継続できることを目的とした制度外の家事支援のサポートを行いました。
- ・ 定期的な利用が8割を占め、スポット的な利用にも対応しました。週6日、週5日などのサービス提供にも対応し、利用者のニーズに応える態勢をとることができました。
- ・ 地域包括支援センターなどと連携をとりながら、困難事例にも対応しました。
- ・ さぽとの範囲でサービス提供を行っていた無償移送サービスを福祉有償移送サービス事業に移行したため、提供総時間数は、事業計画に達していません。
- ・ スタッフの増員は、できませんでした。

■ 埼玉県障害児（者）生活サポート事業 一時預かり・外出援助・移送

- ・ 北本市・鴻巣市・桶川市に事業所登録申請を行いました。
- ・ 年度末に近い登録だったため、利用者はいませんでした。
- ・ パンフレットを作成しました。

(3) 地域福祉ネットワーク作り事業

■ コンサートの開催

コンサートの開催は、できませんでした。

■ 埼玉ワーカーズコレクティブ連合会の活動

- ・ 労働者協同組合等の主催する今、『協同』がつくる 2012 全国集会に実行委員として参加、集会には、5 名が参加しました。
- ・ 福祉部会に参加し、たすけあいワーカーズの課題を共有し、他ワーカーズと連携しました。
- ・ 生活クラブ各支部向け託児ケア講習会（3 か所）の講師を担いました。

■ コミュニティケアクラブ埼玉（CCS）の活動

- ・ 生活クラブたすけあいのシステムであるエコロの熊谷ブロックコーディネートをを行いました。
- ・ 運営会議に参加し、CCS の活動を担いました。
- ・ 生活クラブ熊谷ブロックの地域福祉学習会にファシリテーターとして参加しました。

■ その他

- ・ ワーカーズとして「ともに働く」ことを考えた働きにくさを抱える人の仕事作りとして、内職作業を受注し継続を試みましたが、サロン内での実施は難しく中止しました。
- ・ 近隣のお祭りなどのイベントに参加し、フリーマーケットなどで広報活動を行い、地域の社会資源との連携を深めました。
- ・ 熊谷地域協議会に参加し、地域の課題を共有しました。
- ・ 北本市地域福祉計画策定のためのヒアリングに団体として参加し、意見を述べました。
- ・ 被災地支援活動ボランティア団体宮北会と連携し、被災地支援活動の支援を行いました。

(4) 福祉有償運送事業

移送回数 82 回 運行距離数 900.5 km、介助時間 45 時間

- ・ 2012 年 8 月に福祉有償運送運営協議会の協議が調い、9 月に関東運輸局埼玉運輸支局に登録を済ませ、10 月から運転者 4 名の体制でサービス提供を開始しました。
- ・ 利用目的で一番多い利用は、通院介助でしたが、買い物などのお出かけの利用にも対応しました。